

書
卷
二
目
録



揚代金直段附合印平日定 年中月次り日

新造 金壹兩

新造附

金三兩
金五兩

正月

松之内
廿五日

二月

初午

新造 金三兩

新造附

金三兩
金壹兩

三月

三日
四日

四月

朔日

新造 金三兩

新造附

金貳兩
金壹兩

五月

五日
六日

六月

朔日

新造附 金壹兩

新造附

金壹兩
金壹兩

七月

七日
十六日

八月

朔日
十五日

新造附 金三兩

新造附

金壹兩
金壹兩

九月

九日

十月

廿日

新造附 金三兩

新造附

金貳兩
金貳兩

家よりて十一月

新造 金二兩

新造附

金貳兩
金貳兩

より見世を

夫不老の廓は千秋萬歳の貢ハ八朔乃雪が積
る中み解けんとす暁のきみく延く時雨り葉と深
め夕日に紅の色と増其色は深きら瀬と知らば常燈明
の漂櫻あり自當は來通ふ人の舟と待乳山の簾り
つかぐ誠小齡を延ぐ春老の滝ハ喜の字屋は涌き
音曲あり紅葉の賀をうらふらる白拍子何まを千秋
樂乃夢は結ふ逢瀬の契を色紙乃筆は俣ふ

戌乃

秒秋

真難才がき



卷之五

水

中

卷一

中

卷之五

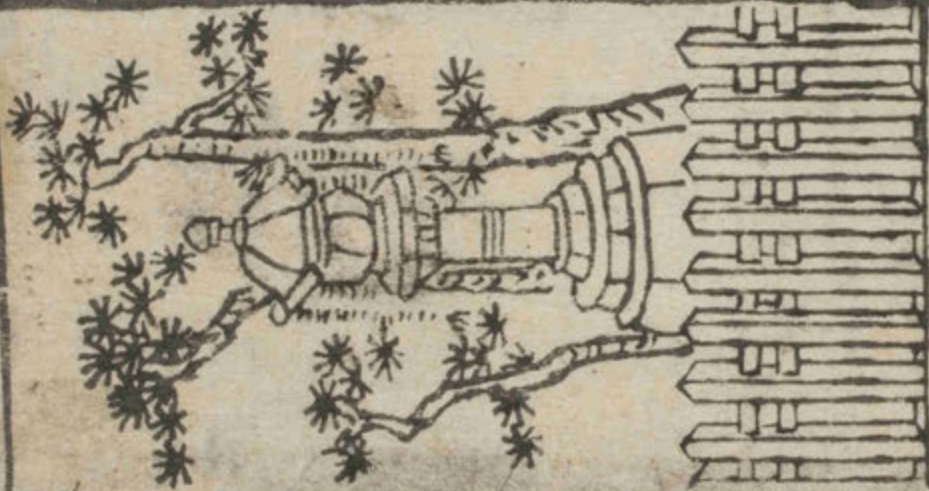
五

五

五

卷之四

atton



張
七

古吉

校

壽

の

卷七

おのれをうたふ

おのれをうたふ

おのれをうたふ

おのれをうたふ

おのれをうたふ

おのれをうたふ

おのれをうたふ

おのれをうたふ

おのれをうたふ

おのれをうたふ

おのれをうたふ

おのれをうたふ

おのれをうたふ

おのれをうたふ

おのれをうたふ

おのれをうたふ

おのれをうたふ

おのれをうたふ

わげやまら茶やのち

つるや

うらや

うらや

かや

かや

かや

かや

かや

かや

かや

かや

かや

かや

かや

かや

かや

かや

Handwritten text in a cursive script, likely representing musical notation or a specific dialect.

[illegible][illegible]

和國

松山

唐土

千

白玉

知義

垢穢

魏前屋瓦瓦所

合

芳壺

義系

入
奶
香

人
務
渾

735

三三三

七
七
七

三

加衣養心

かきくけこ

かか
よこ
と
は
は
は

升
ふふふ
ここの
のい
の

八
白
向

白あや
三ツ子
あや

高正
去

西之門

不の何

ひん

天

五言古詩

孝
 弟
 忠
 信
 義
 廉
 恥
 節
 孝
 弟
 忠
 信
 義
 廉
 恥
 節

花鳥入小瓶

[illegible]

卷之四



備

花月

司

儲安

德

德

八
路
軍
人

子

潘公事七

[illegible]

Handwritten text in a cursive script, likely representing musical notation or lyrics from a manuscript.

中内屋茶心

色衣

赤人

花の

紅梅

柳

清

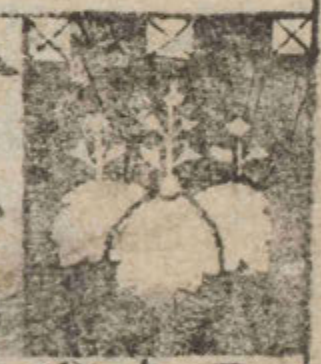
無

山

合

後

猪



通

七

玉

松

伏

後

猪

山

合

Multiple columns of handwritten text in cursive style, likely a list or inventory, spanning the top half of the page.



Vertical text on the far left margin, possibly a page number or title indicator.

卷五

100

松本屋

嘉祿

海



切

錦衣

松山

五
 事の

文を以て
其の心を
示す

72

いふ
てふ

神考

千七百

まゝの丹

三

山ノ下ノ松ノ木ノ葉ノ色ノ青クシテ
山ノ上ノ松ノ木ノ葉ノ色ノ黄クシテ
山ノ中ノ松ノ木ノ葉ノ色ノ赤クシテ
山ノ外ノ松ノ木ノ葉ノ色ノ白クシテ
山ノ内ノ松ノ木ノ葉ノ色ノ黒クシテ
山ノ外ノ松ノ木ノ葉ノ色ノ青クシテ
山ノ内ノ松ノ木ノ葉ノ色ノ黄クシテ
山ノ中ノ松ノ木ノ葉ノ色ノ赤クシテ
山ノ上ノ松ノ木ノ葉ノ色ノ白クシテ
山ノ下ノ松ノ木ノ葉ノ色ノ黒クシテ

山ノ下ノ松ノ木ノ葉ノ色ノ青クシテ
山ノ上ノ松ノ木ノ葉ノ色ノ黄クシテ
山ノ中ノ松ノ木ノ葉ノ色ノ赤クシテ
山ノ外ノ松ノ木ノ葉ノ色ノ白クシテ
山ノ内ノ松ノ木ノ葉ノ色ノ黒クシテ
山ノ外ノ松ノ木ノ葉ノ色ノ青クシテ
山ノ内ノ松ノ木ノ葉ノ色ノ黄クシテ
山ノ中ノ松ノ木ノ葉ノ色ノ赤クシテ
山ノ上ノ松ノ木ノ葉ノ色ノ白クシテ
山ノ下ノ松ノ木ノ葉ノ色ノ黒クシテ

山ノ下ノ松ノ木ノ葉ノ色ノ青クシテ
山ノ上ノ松ノ木ノ葉ノ色ノ黄クシテ
山ノ中ノ松ノ木ノ葉ノ色ノ赤クシテ
山ノ外ノ松ノ木ノ葉ノ色ノ白クシテ
山ノ内ノ松ノ木ノ葉ノ色ノ黒クシテ
山ノ外ノ松ノ木ノ葉ノ色ノ青クシテ
山ノ内ノ松ノ木ノ葉ノ色ノ黄クシテ
山ノ中ノ松ノ木ノ葉ノ色ノ赤クシテ
山ノ上ノ松ノ木ノ葉ノ色ノ白クシテ
山ノ下ノ松ノ木ノ葉ノ色ノ黒クシテ

24

卷之四

子
子
子

明子

花の井
井の井
井の井
井の井
井の井
井の井
井の井
井の井

此
 卷
 之
 一
 也

七
八
九
十
十一
十二

用
美
花
八

雲

卷之七

497 497 497
 497 497 497
 497 497 497

甲午年
 乙未年
 丙申年
 丁酉年
 戊戌年
 己亥年
 庚子年
 辛丑年
 壬寅年
 癸卯年
 甲辰年
 乙巳年
 丙午年
 丁未年
 戊申年
 己酉年
 庚戌年
 辛亥年
 壬子年
 癸丑年
 甲寅年
 乙卯年
 丙辰年
 丁巳年
 戊午年
 己未年
 庚申年
 辛酉年
 壬戌年
 癸亥年

五
五

張氏

卷之四

劉

卷之八

田口 三郎

蘇軾詩集卷之五

五言古詩



四

[illegible]

[Faint, illegible handwritten text]

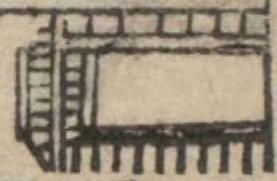
卷之四

卷之四

鐵鑄金庫金銀珠玉



江戸所下目入



九

王

法
律

1

古向

入

八

酒名

三才のの

公孫

九

楊之元

神子

胡氏

稿

書

卷之四

△ 50461

卷之五

卷之四

ハハハ

三

卷之三

内々々々

子方

三

一七

[illegible]

A close-up photograph of a single page from a manuscript, showing two lines of text written in a highly stylized, cursive script. The ink is dark and the parchment is aged and discolored. The script is dense and flowing, with many loops and flourishes. The page is numbered '1' in the top right corner.

天
地
人
三才
一氣
化生

丁亥年



秋
 月
 夜
 涼
 風
 起
 雲
 飛
 雁
 歸
 鄉
 夢
 斷
 人
 愁
 萬
 里
 長
 空
 一
 線
 孤
 鴻
 影
 落
 千
 山
 紅
 燭
 殘
 香
 冷
 淚
 痕
 乾
 錦
 瑟
 無
 聲
 玉
 簫
 不
 響
 碧
 紗
 窗
 下
 銀
 蟾
 滿
 金
 波
 寒
 徹
 玉
 樓
 深
 處
 清
 光
 照
 入
 綺
 羅
 帳
 中
 照
 見
 雙
 燕
 飛
 來
 又
 去
 照
 見
 離
 人
 獨
 坐
 悲
 心
 滿
 面
 猶
 憶
 昔
 年
 同
 此
 時
 共
 看
 今
 夕
 別
 後
 幾
 回
 圓
 缺
 幾
 度
 離
 分
 幾
 多
 怨
 恨
 幾
 許
 憂
 愁
 幾
 般
 煩惱
 幾
 種
 酸
 辛
 幾
 箇
 淒
 涼
 幾
 個
 惆
 悵
 幾
 回
 腸
 斷
 幾
 次
 魂
 銷
 幾
 日
 春
 華
 幾
 寸
 芳
 華
 幾
 段
 韶
 華
 幾
 番
 好
 景
 幾
 回
 良
 辰
 幾
 度
 佳
 節
 幾
 回
 重
 九
 幾
 次
 陽
 春
 幾
 回
 元
 旦
 幾
 度
 端
 陽
 幾
 回
 仲
 夏
 幾
 次
 秋
 分
 幾
 回
 冬
 至
 幾
 度
 歲
 暮
 幾
 回
 年
 終
 幾
 次
 春
 始
 幾
 回
 夏
 初
 幾
 度
 秋
 分
 幾
 回
 冬
 至
 幾
 度
 歲
 暮
 幾
 回
 年
 終
 幾
 次
 春
 始
 幾
 回
 夏
 初
 幾
 度
 秋
 分
 幾
 回
 冬
 至
 幾
 度
 歲
 暮
 幾
 回
 年
 終
 幾
 次
 春
 始
 幾
 回
 夏
 初
 幾
 度
 秋
 分
 幾
 回
 冬
 至
 幾
 度
 歲
 暮
 幾
 回
 年
 終
 幾
 次
 春
 始
 幾
 回
 夏
 初
 幾
 度
 秋
 分
 幾
 回
 冬
 至
 幾
 度
 歲
 暮
 幾
 回
 年
 終
 幾
 次
 春
 始
 幾
 回
 夏
 初
 幾
 度
 秋
 分
 幾
 回
 冬
 至
 幾
 度
 歲
 暮
 幾
 回
 年
 終
 幾
 次
 春
 始
 幾
 回
 夏
 初
 幾
 度
 秋
 分
 幾
 回
 冬
 至
 幾
 度
 歲
 暮
 幾
 回
 年
 終
 幾
 次
 春
 始
 幾
 回
 夏
 初
 幾
 度
 秋
 分
 幾
 回
 冬
 至
 幾
 度
 歲
 暮
 幾
 回
 年
 終
 幾
 次
 春
 始
 幾
 回
 夏
 初
 幾
 度
 秋
 分
 幾
 回
 冬
 至
 幾
 度
 歲
 暮
 幾
 回
 年
 終
 幾
 次
 春
 始
 幾
 回
 夏
 初
 幾
 度
 秋
 分
 幾
 回
 冬
 至
 幾
 度
 歲
 暮
 幾
 回
 年
 終
 幾
 次
 春
 始
 幾
 回
 夏
 初
 幾
 度
 秋
 分
 幾
 回
 冬
 至
 幾
 度
 歲
 暮
 幾
 回
 年
 終
 幾
 次
 春
 始
 幾
 回
 夏
 初
 幾
 度
 秋
 分
 幾
 回
 冬
 至
 幾
 度
 歲
 暮
 幾
 回
 年
 終
 幾
 次
 春
 始
 幾
 回
 夏
 初
 幾
 度
 秋
 分
 幾
 回
 冬
 至
 幾
 度
 歲
 暮
 幾
 回
 年
 終
 幾
 次
 春
 始
 幾
 回
 夏
 初
 幾
 度
 秋
 分
 幾
 回
 冬
 至
 幾
 度
 歲
 暮
 幾
 回
 年
 終
 幾
 次
 春
 始
 幾
 回
 夏
 初
 幾
 度
 秋
 分
 幾
 回
 冬
 至
 幾
 度
 歲
 暮
 幾
 回
 年
 終
 幾
 次
 春
 始
 幾
 回
 夏
 初
 幾
 度
 秋
 分
 幾
 回
 冬
 至
 幾
 度
 歲
 暮
 幾
 回
 年
 終
 幾
 次
 春
 始
 幾
 回
 夏
 初
 幾
 度
 秋
 分
 幾
 回
 冬
 至
 幾
 度
 歲
 暮
 幾
 回
 年
 終
 幾
 次
 春
 始
 幾
 回
 夏
 初
 幾
 度
 秋
 分
 幾
 回
 冬
 至
 幾
 度
 歲
 暮
 幾
 回
 年
 終
 幾
 次
 春
 始
 幾
 回
 夏
 初
 幾
 度
 秋
 分
 幾
 回
 冬
 至
 幾
 度
 歲
 暮
 幾
 回
 年
 終
 幾
 次
 春
 始
 幾
 回
 夏
 初
 幾
 度
 秋
 分
 幾
 回
 冬
 至
 幾
 度
 歲
 暮
 幾
 回
 年
 終
 幾
 次
 春
 始
 幾
 回
 夏
 初
 幾
 度
 秋
 分
 幾
 回
 冬
 至
 幾
 度
 歲
 暮
 幾
 回
 年
 終
 幾
 次
 春
 始
 幾



東坡先生集

金

金剛經

天明五

金

風

卷之六

金平年入

喜多川
 喜多川
 喜多川

[illegible]

ことえん
いれ美
中そ

林三子

[illegible]

以名爲記

[illegible]

寶

鑒

錢



金

八
五
七

32
20
40

年

今更試

義

為張公慶堂所

大正
文庫
の
り

千

子
子

まゐる
とある

《海山名》
きよすく

一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十
 五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百

卷之五

それひふ
みかき

花の戸

海風
四六

みき

卷之五

三

福祿壽喜

55
A-55B

子孫永昌

十
 九
 八
 七
 六
 五
 四
 三
 二
 一

[illegible]

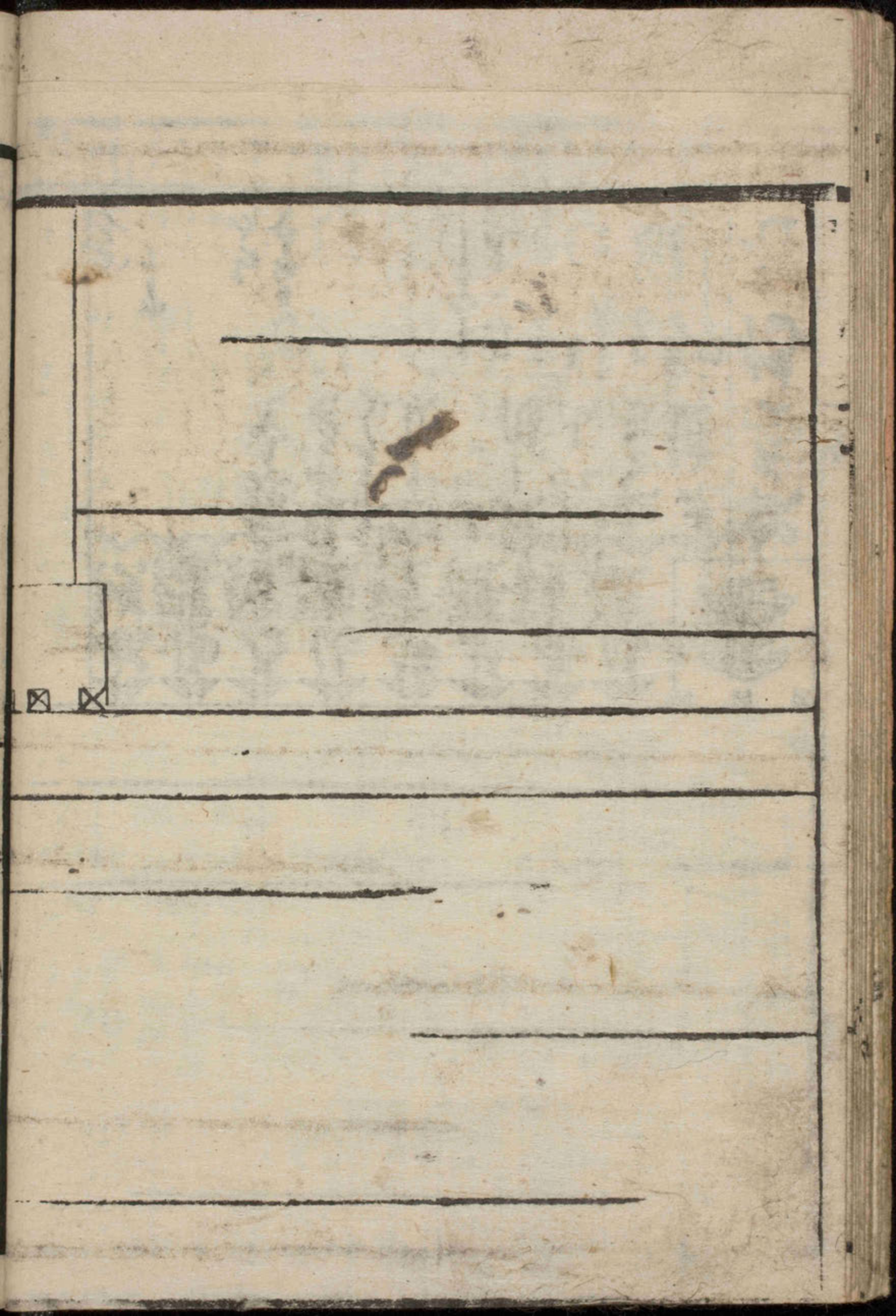
7

43



松浦乃清陝後李氏





Handwritten text in a cursive script, likely a list or account, written on a single line.

[illegible]

朱熹集注

猪村吃雞時松法離
山嶺黑屋山門處

東坡

系

系

系

系

系

系

系

系

系

系

系

系

系

系

系

系

系

系

系

系

系

系

系

系

系

系

系

系

系

系

系

系

系

系

系

系

系

系

系

系

系

系

系

系

系

系

系

系

系

系

系

系

系

系

系

系

系

系

系

系

系

系

系

系

系

系

系

系

系

系

系

系

系

系

系

系

系

系

系

系

系

系

系

系

系

系

系

系

系

系

系

系

系

系

系

系

系

系

系

系

系

系

系

系

系

系

系

系

系

系



ヨメノミ

ヨメノミ

ヨメノミ

ヨメノミ

ヨメノミ

ヨメノミ

ヨメノミ

ヨメノミ



ヨメノミ

ヨメノミ

ヨメノミ

ヨメノミ

ヨメノミ

ヨメノミ

ヨメノミ

ヨメノミ

ヨメノミ

ヨメノミ

大徳

大徳

大徳

大徳

大徳

大徳

大徳

大徳

大徳

大徳

大徳

大徳

大徳

大徳

大徳

大徳

大徳

大徳

大徳

大徳



卷之五
 五
 五
 五
 五
 五

知不足齋叢書

五五五

4
 3
 2
 1



學問

卷之七

242

卷之四

卷之四



このとき
おれ
おれ
おれ

五代子

靜

太閤座
左田座
曉之

なるうろ
けいやく
差のう
いの町
ふきん

けきまろ　　ろ　　ろ　　ろ
 云代　　ろ　　ろ　　ろ
 花まら　　ろ　　ろ　　ろ
 まらまら　　ろ　　ろ　　ろ
 は　　ろ　　ろ　　ろ
 まき　　ろ　　ろ　　ろ
 ろ　　ろ　　ろ　　ろ

北齊書卷之六

妙法蓮華經

一、
 二、
 三、
 四、
 五、
 六、
 七、
 八、
 九、
 十、

あまの

あまの

あまの

あまの

あまの

あまの

あまの

あまの

あまの

あまの

あまの

あまの

あまの

あまの

あまの

あまの

あまの

あまの

あまの

あまの

あまの

あまの

あまの

あまの

あまの

あまの

あまの

あまの

あまの

あまの

あまの

あまの

あまの

あまの

あまの

あまの

あまの

あまの

あまの

あまの

あまの

あまの

あまの

あまの

あまの

ま

ま
ま
ま

ま
ま
ま

ま
ま
ま

ま
ま
ま

ま
ま
ま

ま
ま
ま

ま
ま
ま

ま
ま
ま

ま
ま
ま

ま
ま
ま

ま
ま
ま

ま
ま
ま

ま
ま
ま

ま
ま
ま

ま
ま
ま

ま
ま
ま

ま
ま
ま

ま
ま
ま

ま
ま
ま

ま
ま
ま

ま
ま
ま

ま
ま
ま

ま
ま
ま

ま
ま
ま

江戶屋

江戸屋おとろ

えんとか まるし

そとろ

外とか

ちんち

ろくろ

山

ちんち

おろ

さよ

ちんち

いせの

ろくろ

ちんち

山


山巴屋

玉川

二の町

ちんち

ろくろ

みや

ちんち

かろ

花川

ちんち

あとの

糸屋

糸屋

ひろ

ちんち

ちんち

おの

ちんち

ちんち

松

ちんち

ちんち

ま

ちんち

ちんち

ま

ちんち

ちんち

25

五

五言古詩

北山先生集卷之四

卷之六

Figure 10. A sample of the calligraphic style of the artist, showing a highly stylized, bold, and expressive script.

張

廣野入口



所人
 志保
 榮山
 以菊
 花月
 松浦

維里

落

善

養松

分

試乘

松

人象

人友

人

方三と
 南きの入
 南きそ
 きさ心
 いさ心
 久心
 此か
 此か
 ともあ
 ともあ
 うまら
 うまら
 うまら
 ひかあ
 つりあ
 つりあ

五
十

卷之五

國公欽奉聖訓

助御軍兵



日方學堂加祿

[illegible]

925

Handwritten text in a cursive script, likely a signature or a short note, located at the bottom of the page.

五言古詩

三才圖會

神

卷之四

卷之四

卷之五

子

卷之六

明王

萬曆

卷之四

其

松

五五

秋
興

平樂



吳明

卷之四

今

伏

帝

七
義

いみせの

花のわ

《千と千》

雨之

卷之五

今付

山

卷之四

いふふ
かのまら
そのひち
ういふ
すまの
ふさと
花さん
まの
やま
こころ

由是也
かろ
しる

五言古詩

三

十
 三
 五
 七
 九
 十一
 十三
 十五
 十七
 十九
 二十一
 二十三
 二十五
 二十七
 二十九
 三十一
 三十三
 三十五
 三十七
 三十九
 四十一
 四十三
 四十五
 四十七
 四十九
 五十一
 五十三
 五十五
 五十七
 五十九
 六十一
 六十三
 六十五
 六十七
 六十九
 七十一
 七十三
 七十五
 七十七
 七十九
 八十一
 八十三
 八十五
 八十七
 八十九
 九十一
 九十三
 九十五
 九十七
 九十九
 一百

Handwritten Chinese text in vertical columns, likely bleed-through from the reverse side of the page.

高子
爲佳
佳佳
玉佳
代代
友友
是是
是是

蘭室

無邊

金 秋 賦 金 案 山

七 染
山

世宗憲

林山 暖槐 七欽 芳栢 廿丙 清去 萬里 萬里

志げきぬ
うさきぬ
うさきぬ
うさきぬ
うさきぬ
うさきぬ
うさきぬ
うさきぬ
うさきぬ
うさきぬ

四六八

卷之八

漢書

漢書

漢書

漢書

漢書

漢書

漢書

漢書

漢書

漢書

漢書

漢書

漢書

漢書

漢書

漢書

漢書

漢書

漢書

漢書

漢書

漢書

漢書

漢書

漢書

漢書

漢書

漢書

漢書

漢書

漢書

漢書

漢書

漢書

漢書

漢書

卷之五

古の
うゑ
さか
し

本
 山
 師
 氏
 花
 氏
 吉
 氏
 十
 代
 里
 氏

テ

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

五言古詩
五言古詩
五言古詩
五言古詩
五言古詩

[illegible][illegible]

卷之五
 五言古詩
 五言律詩
 五言絕句
 五言排律

三
卷
五
十
四
六
九

聖賢之志

大工
 長屋
 山
 美世
 小川
 夕花
 小次郎
 中

德不孤必有鄰

その山
ふつ
とて山
ひかり
まゝ

とれや
いんえん
こころ
とるふ
あふ
あふ

そのまゝ
そのまゝ
そのまゝ
そのまゝ
そのまゝ
そのまゝ
そのまゝ

五

Handwritten text in a cursive script, likely a continuation of the previous page, consisting of approximately 15 lines of text.

[illegible]








卷之三

代
 玉
 印
 集

佳

齊

金

茶

香

傳

秋

張

集

齊魯而五帝

福

山田

金
德
個

入聲

卷之四

三

一

乙

一世のまゝの
まゝのまゝの

三
 五
 七
 九
 十一
 十三
 十五
 十七
 十九
 二十一
 二十三
 二十五
 二十七
 二十九
 三十一
 三十三
 三十五
 三十七
 三十九
 四十一
 四十三
 四十五
 四十七
 四十九
 五十一
 五十三
 五十五
 五十七
 五十九
 六十一
 六十三
 六十五
 六十七
 六十九
 七十一
 七十三
 七十五
 七十七
 七十九
 八十一
 八十三
 八十五
 八十七
 八十九
 九十一
 九十三
 九十五
 九十七
 九十九
 一百

あはれ

一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十
 五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百

子
子
子
子

多
 少
 の
 差

卷之四

卷之五

歎
其

[illegible]

卷之八

陸奥 大波 生原 佐奈 主人 雀尾

爲球 うま 武妙 つち 齊結 うま 金虎 うま 夢 うま 在沙 うま 徐陽 うま

[illegible]

嘉慶市三郎

[illegible]

卷之五



五
 六
 七
 八
 九
 十

金 子



伊勢屋五郎

小秋 井荷 万石 花山 幾事 綿山 今川 怪石

無の井
 いがたあ
 いよばる
 いふら
 まん山
 三まう
 ちるせ
 いちよ
 いちあき
 よう山
 うとら
 うちあ
 山
 花た

ちうしな
ちうのく
ちとせ
さよを
つて代
いく代
ワをえ
ちなあ
うさ
ふしな
花はる
こころ
かのう
るう

内
 中
 外

秀

秀

秀

秀

秀

秀

秀

秀

秀



秀

秀

秀

秀

秀

秀

卷之五

九
本

[illegible]

२५

鑒

雲石九名

たは

分風

三

7

孫乾

名

全集

金玉

子

年

か
な

七

内ふや
とみ
こと

海

小松屋

小松屋、文部省

山崎

△松の井
しめめい
こころけ
うささけ
ひやま
すしめえ

都

△千と
つとん
つとん
つとん
つとん
つとん

ふ

△小
つとん
つとん
つとん
つとん
つとん

み

△ま
つとん
つとん
つとん
つとん
つとん

八

△ま
つとん
つとん
つとん
つとん
つとん

活

△ま
つとん
つとん
つとん
つとん
つとん

ね

△ま
つとん
つとん
つとん
つとん
つとん

山

△ま
つとん
つとん
つとん
つとん
つとん

おき

おき

おき

おき

おき

おき

おき

おき

おき

おき

おき

おき



おき

おき

おき

おき

おき

おき

おき

おき

おき

おき

おき

おき

おき

おき

おき

おき

佐理公安人

まのや

へさく

まの

あま

く山

こま

うま

松 芳 花 清 里 松 芳 花 清 里 松 芳 花 清 里

まん ちん ちん ちん ちん

ま

松 芳 花 清 里 松 芳 花 清 里 松 芳 花 清 里

松

松 芳 花 清 里 松 芳 花 清 里 松 芳 花 清 里

松 芳 花 清 里 松 芳 花 清 里 松 芳 花 清 里

松 芳 花 清 里 松 芳 花 清 里 松 芳 花 清 里

松

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

松

山

山

山

山

山

山

山

山

山

松

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

惠心僧都御作

朝日如来

安置

丸屋甚左衛門

あまの源八

阿彌陀

やみひら
けのえり
きむら
まのれ

あまの
まのえり
きむら
まのれ

加納屋

かのう屋收家

きむら
まのえり
きむら
まのれ

あまの
まのえり
きむら
まのれ

あまの
まのえり
きむら
まのれ

あまの
まのえり
きむら
まのれ

あまの
まのえり
きむら
まのれ

あまの
まのえり
きむら
まのれ

あまの
まのえり
きむら
まのれ

加納屋

あまの
まのえり
きむら
まのれ

卷之七

五十五

克勤

[illegible]

五

355 15

小松村長

五言古詩
五言律詩
五言絕句
七言古詩
七言律詩
七言絕句

松坡先生集

款 卷 九 恒 集 山

松

松

ちんつる
九
高まち
外
小の山

楊

知事の
方より
ひきか
へる人
之より

海人林也

東山
劉子
子

くゆあ
まろの
さろこ

はなやま

かきまひ

とまのま

ウツロ
えん

しん
くわ
の
う
り
の
う
り
の
う
り

しん
くわ
の
う
り
の
う
り
の
う
り

しん
くわ
の
う
り
の
う
り
の
う
り

しん
くわ
の
う
り
の
う
り
の
う
り

しん
くわ
の
う
り
の
う
り
の
う
り

しん
くわ
の
う
り
の
う
り
の
う
り

しん
くわ
の
う
り
の
う
り
の
う
り

しん
くわ
の
う
り
の
う
り
の
う
り

しん
くわ
の
う
り
の
う
り
の
う
り

しん
くわ
の
う
り
の
う
り
の
う
り



しん
くわ
の
う
り
の
う
り
の
う
り

しん
くわ
の
う
り
の
う
り
の
う
り

しん
くわ
の
う
り
の
う
り
の
う
り

しん
くわ
の
う
り
の
う
り
の
う
り



明
屋

明
屋

明
屋

明
屋

明
屋

明
屋

明
屋

明
屋

明
屋

明
屋

明
屋

明
屋

かて

かて

かて

かて

かて

かて

位一正

かて

かて

かて

かて

かて

かて

かて

かて

卷之四
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十
 五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百

This image shows a page from an ancient manuscript, possibly a calendar or almanac. The text is written in a cursive script, likely from a medieval or early modern period. The page is organized into columns, with some larger, bold characters at the top of each column, possibly indicating months or days. The parchment is aged and shows signs of wear, including discoloration and some staining.

[Faint, illegible handwritten text from another page visible through the parchment.]

男藝者之部

女藝者之部

都太夫	一仲	竹本	信太夫	てあ	ゆう	ふと	てい	ろん	とも
山茂	文次郎	野沢	伊佐善	い	で	つ	ひ	あ	の
山茂	文四郎	都	吉藏	あ	そ	よ	あ	こ	と
萩江	藤吉	萩江	藤吉	や	あ	と	と	あ	ひ
萩江	松藏	名見寄	市平郎	あ	の	ら	え	あ	い
萩江	藤治	名見寄	友治	う	い	ま	あ	う	あ
富本	安梨美	富士	亀徳	ち	あ	や	ん	ま	つ
三保寄	兵助			あ	い	え	あ	あ	ん
三味子	利八			あ	う	あ	あ	あ	ん
萩江	傳吉			わ	あ	ま	さ	の	い
常磐津	造酒美			あ	と	あ	あ	あ	あ
名見寄	安次郎			あ	あ	い	あ	あ	あ
萩江	徳藏			あ	あ	あ	あ	あ	あ
萩江	藤十郎			あ	あ	あ	あ	あ	あ

富本 志美

十寸見 蘭尔

富本 富美夫

萩江 佐之助

田子 七平

萩江 榮藏

萩江 半治郎

吾妻 智賀美

岡安 幸次郎

竹本 定太夫

野沢 富吉

富本 妻太夫

富本 寫太夫

錦屋 惣八

鳥羽屋 里長

野沢 長次郎

あき せん そのう人

うら せん まさき 形ど せん

うら せん と な あべ きせ

うら つる いち う ま せん

きき ゆた う か ろ め さと

あけ けん さ よ か ね よ の

もよ へる さ や と の つ や

まん きき せ と う の う よ

あけ せん さ う し が い う

あけ し ま あ か み の せん

いと と せ へ 代 と 代 せん

さき へる せ と 中 が 出 ち

こよ どん きか い の きき

ぎの らん せ 世 野沢 榮治

いよ つか さ 話 雀沢 惣助

アセ いと あい 役 萩江 傳吉

會州府志

卷之八

職官

縣令

縣丞

縣主簿

縣典史

新泉寺

山門

山門

山門

山門

山門

享和二年

壬戌七月

改不 儀奉行 小泉忠五郎

取次不 吉永大門口 小田原屋又兵衛

版元 通油町 萬屋重二郎

